

Share the Next Values!

地方の課題を イノベーションで 解決する。



「NRI 学生小論文コンテスト」とは？

野村総合研究所 (NRI) は、「未来創発 — Dream up the future.」という企業理念のもと、未来社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うことを使命としています。

そうしたNRIの社会的責任の一環として、これからの社会を担う若い世代の皆さんに、日本や世界の未来に目を向け、自分たちが何をなすべきかを真剣に考え、その熱い思いを発表する場を持っていただこうと、2006年から毎年「NRI 学生小論文コンテスト」を開催しています。

毎年、学生の皆さんから、日本と世界の新たな関係づくりや、明るい未来に向けた斬新で力強い提案をいただいています。

NRIは、コンテストで入賞した若い世代からの提案を、広く社会に公表することによって、若者を含む幅広い世代が日本の未来を考えるきっかけにしたいと考えています。



コンテストへの想い

「地方の課題をイノベーションで解決する。」 斬新な提案を待っています

いま日本には、解決しなければならない社会課題が山積しています。NRIグループは創業以来、事業を通じてさまざまな社会課題を解決し、持続可能な未来に導く取り組みを行ってきました。とりわけ、日本における重要課題である災害復興や地方創生においては、コンサルティング事業で培った知見や人材を活かして地域貢献に努めています。

今年で12回目となるNRI学生小論文コンテストでは、NRIグループの社会貢献活動に近いテーマを設定することで、よりNRIグループらしい学生小論文コンテストとなることを目指しました。大学生、高校生の皆さんの、「地方の課題をイノベーションで解決する。」斬新な提案を期待しています。

NRI代表取締役社長
此本 臣吾



これまでの募集テーマ

大学生の部・留学生の部 | 高校生の部

- 第1回（2006） ユビキタスネット時代のITと人間の関わり | モチベーションクライシス
- 第2回（2007） 日本が世界と共生するには | 日本から見た世界 世界から見た日本
- 第3回（2008） 日本の「第三の開国」に向けて | 2015年の日本人像・家族像
- 第4回（2009） ITを活用した日本発ビジネス | 日本はコレで世界一になる！
- 第5回（2010） 日本が世界のためにできること | 世界のなかで日本の魅力を高めるには
- 第6回（2011） 2025年、新しい“日本型”社会の提案 | 2025年の日本を担うわたしの夢
- 第7回（2012） 自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会
あるべき社会の姿と私たちの挑戦 | 私たちがすべきこと、できること、やりたいこと
- 第8回（2013） あなたが考える“わくわく社会”を描いてください
- 第9回（2014） 創りたい未来社会 —あなたの夢とこだわり
- 第10回（2015） 2030年に向けて —「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」
- 第11回（2016） Share the Next Values! 世界を変える、新たな挑戦



これまでの受賞論文記録集

コンテストへの思い——特別審査委員

あっと驚かされるような論文を期待しています

「NRI学生小論文コンテスト」の審査には2006年の第1回目から携わり、今回で12回目となりました。毎年、若い世代の方々の新鮮な発想に触れて刺激を受け、自分自身の勉強にもなっています。それぞれ視点の異なる論文に順位をつけることには、毎回大変苦労しています。若い世代だからこそ書ける、雄大な夢を描くような、あるいは「こんな問題があったのか!」と驚かされるような論文に出会えることを楽しみにしています。

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員

池上 彰 さん

ジャーナリスト、名城大学教授、東京工業大学特命教授。1973年NHKに記者として入局し、1994年から「週刊こどもニュース」の“お父さん”を11年間務め、2005年独立。著書に『伝える力』『池上彰の現代史授業——21世紀を生きる若い人たちへ シリーズ』『知らないと恥をかく世界の大問題』『池上彰教授の東工大講義』『大世界史』『考える力がつく本』など。



思いや世界観を深めて テーマに挑んで

私は論文を読むとき、その論文がなぜそのテーマで書かれたのか、筆者はどういう世界観を持ってそのテーマに挑んでいるのかということをもっと知りたいと思っています。高校生にも大学生にも、しっかりと自分の思いや世界観を深めて論文執筆に臨んでほしいと思います。ぜひ「こんなこと実現するわけない」と思うような、突き抜けたアイデアを提案してください。

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員
ノンフィクションライター

最相 葉月 さん

さいしょう はづき——ノンフィクションライター。科学技術と人間の関係性、災害、医療などを中心に取材執筆活動を行う。著書に『絶対音感』『星新一 一〇〇一話をつくった人』『青いバラ』『ピヨンド・エジソン』『セラピスト』『れるられる』『ナグネ 中国朝鮮族の友と日本』『理系という生き方 東工大講義 生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか』など。

審査には地方代表としての 視点から

今回初めて「NRI学生小論文コンテスト」の審査に参加します。私は北海道砂川市という人口1万7千人の小さな町で本屋を営みながら、「1万円選書」という取り組みを通じて日本全国の方と交流しています。地方の過疎地での日々の暮らしは、都会にはない心地良さがあります。「地方の課題をイノベーションで解決する。」という今回のテーマ、地方に暮らす者としての視点を大切に審査にあたりたいと思っています。

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員

いわた書店 取締役社長

岩田 徹 さん

いわた とおる——北海道砂川市にある「いわた書店」社長。2007年から1万円分の本を選んで届ける「1万円選書」のしくみを始める。読書歴、仕事、人生観などを知るために顧客に「選書カルテ」を記入してもらい、その人のためだけに本を選ぶサービスは、メディアやSNSで評判を呼び、全国から注文が殺到。募集すると1日千件の応募があり、抽選で受け付けている。



大学生の部、高校生の部 募集テーマ

[メインテーマ]

Share the Next Values! 地方の課題をイノベーションで解決する。

[サブテーマ] — 以下の3つから1つを選択

- ① 震災復興
- ② 地方創生
- ③ 地方の産業改革

高校生・大学生の皆さんは、自身が活躍しているであろう2030年ごろの日本がどのような社会になっていると想像しますか？ 変化が激しく先の予測がつかないこの時代、NRIは皆さんと一緒に社会をしっかりと見据えながら未来を切り拓いていきたい。この思いから今回の募集テーマを決定しました。“Share the Next Values!”には、皆さんや学校、研究機関、社会の人々と『新たな価値を創造し、ともに分かち合う』という思いを込めています。**皆さんの未来に、日本の各地方がそれぞれの特徴を生かした自律的で持続的な社会であることを願っています。**

東日本大震災から既に6年が経過、しかし、未だ約12万人もの方々が避難生活を続けています。昨年は、熊本にも大きな地震が起きました。地震国の日本で、**「震災復興」**は、継続的に取り組むべき問題です。また、戦後続いた東京への人口一極集中とグローバル化の進展は、地方の労働力の減少や産業の衰退を引き起こしています。政府においても**「地方創生」**を重要課題に取り上げ、高齢化・過疎化が進む地方社会の活性化や、農林水産業をはじめとする**「地方の産業改革」**に向けて、様々な施策が検討されています。

このように日本では、地方ごとに多くの深刻な課題を抱えています。

一方、世界に目を広げると、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、Fintech(フィンテック：金融分野における新技術導入)など、IT(情報技術)を中心とした革新的な技術が、産業や社会を大きく変えようとしています。技術だけでなく、制度や社会の仕組み、ビジネスモデルなどに関しても、**「従来なかった革新的な考え方や手法(イノベーション)」**が続々と生まれ、様々な課題を解決する手段として注目されています。

そのような「イノベーション」によって、上で採り上げたような、我が国の地方が直面する課題を解決するアイデアを募集します。

選択したサブテーマに沿って、地方が抱える具体的な課題を採り上げ、それをどのようなイノベーションによって解決に導くかについて、提案してください。皆さんからの斬新な提案をお待ちしています。

募集要項

「地方の課題をイノベーションで解決する。」 アイデアを提案してください!

大学生の部

募集期間

2017年7月3日～9月4日

応募資格

日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校(4～5年)に在籍している学生で、2017年7月2日時点で27歳以下の、個人または5名までのグループ(グループ員は、大学生の部、高校生の部の応募資格者のいずれでも可)。

字数

4,500～5,000字 *別途400字程度の要約を添付

賞

[大賞1作品] 賞金50万円

[優秀賞2作品] 賞金25万円

[奨励賞 若干] 賞金5万円

高校生の部

募集期間

2017年7月3日～9月11日

応募資格

日本国内の高校、高等専門学校(1～3年)に在籍している学生、もしくは日本国内の中学校の3年に在籍している学生で、2017年7月2日時点で20歳以下の、個人または5名までのグループ(グループ員は、高校生の部の応募資格者に限る)。

字数

2,500～3,000字 *別途200字程度の要約を添付

賞

[大賞1作品] 賞金30万円

[優秀賞2作品] 賞金15万円

[奨励賞 若干] 賞金3万円

〈応募に際しての注意事項〉

- ・応募論文は、日本語で執筆された、自作で未発表のものに限る。
- ・他の著作物を引用する場合は、その箇所を明記するとともに、論文の最後に出所を記載する。
- ・図表中の文字、図表タイトル、注釈、参考文献一覧は、字数に含まない。図表の数は5点以内とする。
- ・最終審査会のプレゼンテーションの映像は、内容を確認した上でYouTube で公開を予定。
- ・応募論文の著作権は、野村総合研究所に属する。

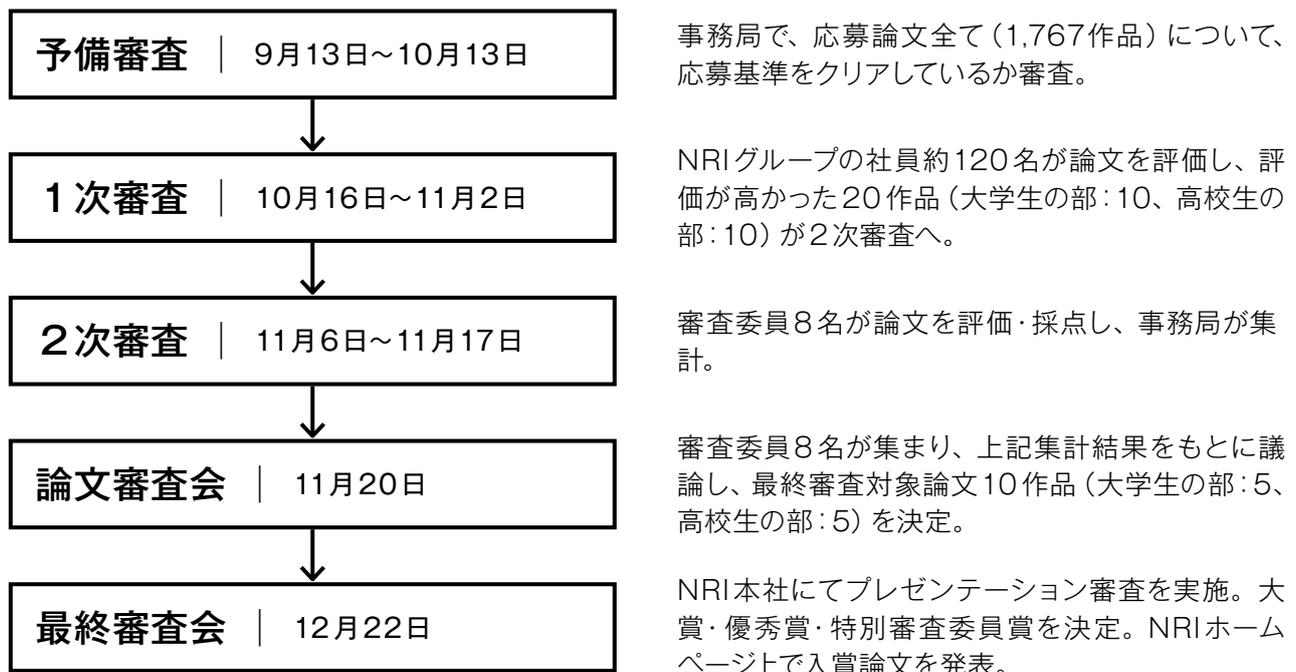
審査のプロセス

入賞論文は、予備審査→1次審査→2次審査→論文最終審査→最終審査会という5つのステップを経て決定しました。

今回から審査ステップを追加

- 論文審査を通過した入賞者は、最終審査会においてプレゼンテーションを行っていただきました。
- 各賞は、最終審査会におけるプレゼンテーションで確定させました。

最終審査会以外は、どの審査においても、応募者の学校名、氏名などの属性を秘匿したうえで、厳正に行っています。また、評価が偏らないように、1つ1つの応募作品を複数の者が評価しています。



〈論文審査の評価基準〉

◆ テーマと論点の整合性

◆ 問題発見力

- ・ 独自性・斬新さを持った問題の提起がなされているか
- ・ 論点に対する切り口の鋭さ、考察の深さ
- ・ 具体例、数値を使用するなど論点のわかりやすさ

◆ 問題解決力

- ・ 提案や解決策のスケールの雄大さ、視野の広さ
- ・ 提案や解決策の独自性・実現性

◆ 文章力

- ・ 論文構成のわかりやすさ
- ・ 文法の正しさ、誤字・脱字の少なさ

◆ 上記には該当しない評価点

- ・ 評価基準以外の尺度においても、特に評価が高い論文は加点(例: テーマや提案内容に対する熱い思い、独自の調査・取材の実施、体験談、など)

入賞作品

入賞者のみなさん、おめでとうございます！

大学生の部

大賞

サブテーマ：地方創生

建設前から始めるインフラツーリズム戦略 ～インフラ総建て替え時代への提言～

山崎 優斗 立命館大学 経済学部国際経済学科2年

三宅 浩太 立命館大学 経済学部国際経済学科2年（共著）

優秀賞

サブテーマ：地方の産業改革

鹿児島県の医療業に現場起点型病院経営イノベーションを！

榎園 乃里恵 鹿児島大学 法文学部経済情報学科4年

松田 優太郎 鹿児島大学 法文学部経済情報学科2年（共著）

優秀賞

サブテーマ：地方創生

IT人材育成型スマートスクールタウン構想 ～ずっとここで暮らせる街づくり

木田 夕菜 鹿児島大学 法文学部人文学科2年

特別審査 委員賞

サブテーマ：地方創生

地方が外国人学生にとっての「第二の故郷」になることを目指して

～「日本ふるさとプロジェクト」の全国的実施による新しい可能性の創出～

中島 大地 一橋大学大学院 言語社会研究科2年

特別審査 委員賞

サブテーマ：地方創生

コンパクトシティ実現へ向けた公共ライドシェアリング

仁科 慎也 慶應義塾大学 経済学部4年

高校生の部

大賞

サブテーマ：地方創生

おじいちゃん☆おばあちゃんGO

—多様性を維持し持続的イノベーションを促す主体的な取り組み—

堤 ともか 茨城県 明秀学園日立高等学校2年

優秀賞

サブテーマ：地方創生

北海道日高地方に見る一次産業の存続

宮本 晏寿 東京都立国際高等学校2年

優秀賞

サブテーマ：地方創生

「夕張メロン科」—地方と若者の挑戦

柳沼 千夏 北海道 立命館慶祥高等学校3年

特別審査 委員賞

サブテーマ：地方創生

文化を地方から世界へ

～互いを理解し合う劇で世界をもっとよくしよう！～

長谷川 その香 宮城県宮城野高等学校1年

特別審査 委員賞

サブテーマ：震災復興

ユニット港湾“パズル港”による災害支援

吉田 堯史 福岡県 久留米工業高等専門学校2年

入賞作品

大学生の部 奨励賞

サブテーマ：地方創生

高卒就職の改革が、地方を蘇らせる

伊藤 直 明治大学 商学部3年
山田 翠 明治大学 商学部3年(共著)
福本 恭佑 明治大学 商学部3年(共著)
金崎 美咲 明治大学 商学部3年(共著)

サブテーマ：地方の産業改革

IT化による出雲市の医療・介護連携に対する課題について

王 斌宇 島根大学大学院 人文社会科学研究科2年
小川 菜実子 島根大学大学院 人文社会科学研究科1年(共著)

サブテーマ：地方創生

Uターン就職者増加によって県外転出を抑制する奨学金返済補助制度の提案

木村 勇斗 獨協大学 経済学部国際環境経済学科3年

サブテーマ：地方創生

女性活躍による地方創生

—地方企業における「社内FA制度」の提言

早乙女 まの 東京理科大学 経営学部2年

サブテーマ：地方創生

ICTを用いた地方生産者共同体

～共同と競争による地方経済活性化策～

鈴木 文吾 早稲田大学 教育学部社会科社会科学専修1年

サブテーマ：地方の産業改革

地域内バイオマスの活用による資源循環型社会のすすめ

高山 健 東京工業大学 環境・社会理工学院 融合理工学系研究生
小野 恭史 茨城大学大学院 農学研究科 農学専攻1年(共著)

サブテーマ：地方創生

すべての学生のための長期インターンシップ

～どこにでも、だれにでも～

田中 香子 神戸大学 国際文化学部4年

サブテーマ：地方の産業改革

ソーシャルイノベーションをテーマにした観光産業改革

—観光産業が障害者の雇用の「場」となることを目指して—

中山 裕太 中央大学 経済学部3年

サブテーマ：地方創生

地方を変える、バクテリア探索アプリ「BactoFinder」

藤田 創 東京工業大学 生命理工学院 生命理工学系2年

高校生の部 奨励賞

サブテーマ：地方創生

首都アシスト構想

池本 由梨奈 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

サブテーマ：地方の産業改革

これからの山梨の宿泊業

岩瀬 大周 山梨県立甲府第一高等学校3年
藤本 真生 山梨県立甲府第一高等学校3年(共著)
日向 凜々子 山梨県立甲府第一高等学校3年(共著)
村上 晶海 山梨県立甲府第一高等学校3年(共著)

サブテーマ：地方の産業改革

札幌市で観光用シティーバスを冬季限定で導入すべきか。

内田 早耶 北海道 立命館慶祥高等学校3年

サブテーマ：地方の産業改革

地方のあるべき統制へ

～耕作放棄地から見える自己責任論の追放を目指して～

荻 遥馬 北海道 立命館慶祥高等学校3年

サブテーマ：地方創生

双方向型クラウドファンディングシステム『FORUM』

上村 奈津佳 神奈川県 湘南白百合学園高等学校2年

サブテーマ：地方の産業改革

北海道の産業に先進的なIT技術を

小山 琳 北海道 立命館慶祥高等学校3年

サブテーマ：震災復興

みんなで作る震災復興と挑戦する社会への一歩

—核融合発電ベンチャーの起業促進—

佐藤 一輝 茨城県 明秀学園日立高等学校2年

サブテーマ：地方創生

じゃがいもスイートポテトで北海道小清水町の知名度を全国区にすることは可能か

鈴木 航弥 北海道 立命館慶祥高等学校3年

入賞作品

サブテーマ：地方創生

ICTを活用したオンデマンド・バスとコミュニティー・センターを組み合わせ地方創生

関 健太 東京都 学習院高等科2年

サブテーマ：地方創生

日本における配送システムの見直し

竹内 梨花子 愛知県 名古屋市立菊里高等学校2年

【サブテーマ：地方の産業改革】

産業改革による地方創生

田嶋 健人 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

サブテーマ：地方創生

地方を助ける垂直農法

田村 南津乃 埼玉県 本庄東高等学校2年

サブテーマ：地方創生

「健康長寿」で地方創生を

—「健康長寿世界一」を目指す長野県の事例を参考に—

轟 隆紀 滋賀県 立命館山高等学校1年

サブテーマ：地方の産業改革

「一口牧場主制度」で軽種馬生産牧場の減少を防ぐ

新岡 翔大 北海道 立命館慶祥高等学校3年

サブテーマ：地方の産業改革

製紙産業から創る地方創生と持続可能な社会

橋本 貴欣 兵庫県 西宮市立西宮高等学校1年

サブテーマ：震災復興

震災からの復興

～三陸近辺の町をイノベーションで救うには～

星 明日香 埼玉県 開智高等学校1年

サブテーマ：地方創生

国民全員でこれからの日本をつくる。

真部 和佳奈 兵庫県 西宮市立西宮高等学校1年

サブテーマ：地方創生

廃校ピンチが、IT革命で、就職チャンスに生まれ変わる

南口 虎太郎 大阪府 関西学院千里国際高等部3年

サブテーマ：震災復興

人づくりが生む震災復興

村岡 優太 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

サブテーマ：地方創生

「〇〇のまちプロジェクト」による過疎化解消

—北海道・由仁町を例に—

渡辺 眞由 北海道 立命館慶祥高等学校3年

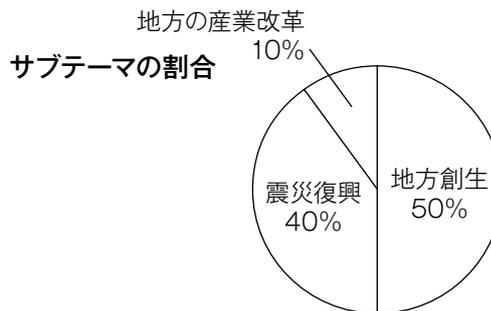
論文の応募概況

応募論文数と入賞論文数は、以下のとおりです。

応募論文数

大学生の部	高校生の部
106 (25)	1,661 (21)
総数	1,767 (46)

()内は2名以上のグループ応募数



入賞論文数

	大学生の部	高校生の部	計
受賞 (大賞・優秀賞・特別審査委員賞)	5	5	10
奨励賞	9	20	29
計	14	25	39